

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

前回の質問事項の説明(県職)

*中部縦貫道路の実現可能性と、計画の進捗状況について

H13は地元設計協議中。

*将来交通量の予測について

予測には3段階あり、発生集中交通量の推計、分布交通量の推計、そして配分交通量の推計である。発生集中交通量の推計および分布交通量の推計は、国で一括処理している。県では配分量の計算を行っている。たとえば穂高町を一つ(大都市はもっと細分化)のゾーンとして、穂高を起点・終点とする分布交通量を拾い出したものが別紙の穂高町の将来OD表。

その中の数字を何分割かにしてその他のゾーンへの交通量を流す。その後Q-V曲線により各路線の速度を計算する。(交通量が増えると持っている速度が下がる)最短距離がこんでくるとよその道路に回ると仮定し、繰り返し計算をして、その路線の配分量を決める。

*訂正!比較ルート2の地図でBとCを入れ替える

*概略ルート検討表の8の資料は?

その場でコピーして配布

穂高町の将来のために何が必要か、ということも含めて、前回に引き続き議論をしたい。

:今日は年配の人たちの交流会があり(60歳以上男性6割)の中でも、あれはいらぬよねという話がでていた。そういう町民のみなさんのご意見が、道路を造るにあたって大事。

岐阜県の高山～恵那を結ぶ計画中の県道では、事前評価制度というのを始めた。住民が中心となって自分たちが使いやすい道づくりを検討している。事後評価制度も検討中だと聞いている。町づくりと道づくりを同じテーブルの上に載せて検討していくことが重要だ。

インターネットで、大北以北の意見も見えてきた。北の方が寂れているという切実な声が出ている。もっと道がなければもっと大変なことになるという。だが、本当に小谷白馬が寂れたのは、道のせいだけなのか。日本の高度経済成長の中で取り残されてきたのであって直接的に道の問題ではないように思う。が、その切実さは理解できる。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

: 前回の意見要旨を見ると穂高町ということだけにこだわっている意見が多いが、これは国のプロジェクトであって、地域全体の問題。穂高町だけはいらないという意見では通らない。地域全体に通じる意見として反対意見を構成しないとおかしい。高規格道路をつくるくらいならばその予算は別に使おうという意見が多いようだが、国に対して高規格道路の予算を返上するから町道に予算をつけてくれということとはできない。

昨今の状況としては、道路をつくってほしいといってもなかなかつくれないのが現実。道路建設などというものは政治によって進められているのだから、我々がどうこう言ってもどうなるものではない。問題を分けて、地域の問題としての道路と、町の道路の問題は切り離して論じたほうがいいのではないか。反対の理由をもう少し視野を広げたところから付け加える必要がある。

私は自動車の専用道路というものは絶対に必要だと思う。これだけ自動車が国の経済の基幹となっているにもかかわらず、道路を否定することには無理がある。町民で多数決をとれば、賛成派の方が多いではないか。この意見交換会での賛成・反対の割合は、町民全体の割合とは違う。この意見交換会の持ち方に問題がある。このグループの報告をまとめるにあたり、建設的な意見を出し合えたらと思う。

: おっしゃるとおり、この道路は広域にとってどうなのかという話と、穂高町にとってどうなのかという話と2つの流れがある。これまでの計画策定・調査が、あまりにも町民に公開されずに進められ、町民の声が反映されてこなかったことが問題だと思う。町にとってのインパクトを今一度整理して考える必要がある。今後の進め方についてはどうしていくのか。グループとしてまとめるのか。

: ここで一つの結論を出してしまうことは、意見交換会の趣旨に合わない。

: それでは、既に大勢の方がマイナスの影響が多いのではないかとおっしゃっているので重ねては言わないが、私はこの道路計画には反対だということを申し上げたい。

: 欲しいといっている人たちと本当に意見を交換して、理解しあう場にできなかった。私は調査区間の解除をして欲しいと思っており、ほかのグループではそれを申し入れるという方向でまとまったところもある。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

: 高度経済成長で車は増えたけれども、昨年では車を走らせること自体にさまざまな問題が出てきている。代替エネルギーの研究は進んでいるが、車社会を見直す動きも進んでいこう。ドイツなどを見ても、パークアイランドのように、公共交通機関をフル活用してやっているところもある。また、大量に廃車された車が野積みになっているという問題ある。

: これだけみんなが自動車に乗りなれているのだから、降りろといっても無理。

: 長野市で成功した例もある。

: 駅まで行くのも、今は車で行かなければ行かない。町内の巡回バスなどと合わせてシステムとして整備しなければ、解決は無理。

: 朝日新聞に、20年後の車の量が減少するという国土交通省の見解が出ていた。少子化、エネルギー問題、高齢化などを考えると、やはり道路整備よりは、公共交通網の整備を望む。道路が地域の活性化につながるという話だが、オリンピック道路が出来たことは、地域の活性化に寄与していない。むしろ、逆だった。

: 穂高も大町も、郊外に店ができて、住民はどんどん郊外に買い物に行くようになっていく。化石燃料はそんなにたくさん残されているわけではない。今がこうだからといって将来もこのままいくはずはない。我々が子供たちに何を残すか、先を見通して考えることが大事。

: ここにこない人の中では道路に賛成の人が多くという根拠は？

: 推定に過ぎない。私のまわりでは反対の声は聞かない。

: 私の周りでは反対の声しか聞かない。アンケートでも反対が多い結果が出ている。それはそれで、データとして捉えていいのではないか。長野市はあれだけお金をかけて新幹線と道路を呼んで来て、残ったのは町の空洞化だ。いったい道路が出来て幸せになった町があるのか。あれば見習いたい。もしも町が空洞化するのを覚悟で、ネットワークとして必要ということになれば、最短距離でお金をかけないで作ることを検討すべきだ。大北以北の検討資料は、堤防道路ができる前のものだ。大町の上一交差点から穂高の重柳交差点までの信号の数は、国道では16、堤防道路では3。大町の人はどうして堤防を使うルートを言わないのか。

ルート検討の資料を見ると、山麓ルートが一番費用対効果が高い調査結果になっているが、これは縦貫道が出来た暁の話であり、縦貫道にかかるお金は含まれていない。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- : 場所がどこであれ、高規格道路が必要でないといっているのか、山麓を通るのはやめて欲しいといっているのか、整理しよう。私は場所を言っているわけではなく、国道をバイパスする自動車専用道路はつくるべきだといっている。先ず必要かどうか話があって、ルートはその後の話だ。
- : さっきからいろいろな話が出ているが、エネルギー、車会社、人口減、高齢化などを踏まえても、なおかつ道を作っておきたいとお考えなのか。
- : うんとりっぱな高速道路が欲しいといっているわけではなく、自動車は専用道路を走ったほうが、安全のために望ましいと考えている。技術の進歩、電気自動車の普及なども考えられ、今より自動車が衰退していくとは思えない。
- : 専用道路というが、今の大規模農道や山麓線はほとんど自動車専用道路だ。農道を通るにしたって山麓を通るにしたって散歩もできないような状態になっている。そういうものを整備して、安心して歩けるような道をつくる方が先ではないか。高規格道路をつくっても、今の道を使わなくなるわけではなく、安全面では今と一緒だ。
- : おっしゃるような道は高規格道路ではない。そもそも高規格道路とは国の総合画から出てきているものであり、地域間の交流といっても、それは松本と糸魚川の交流といった大きなスケールを指している。決して途中の生活者のことを考えたものではない。そういう意味では、途中に住む私たちが、こんな道路はいらないということは、重要だと思う。財源の話だが、道路を造るのは国の補助でも、町の負担は必ずある。つくるだけではなく維持にもお金がかかる。町の財源の割り振りを、高規格道路ではなく、もっと別のものに振り分けて欲しいということは意味があるのではないか。
- : ここで使わなかったお金はよそに回っていただけだ、という考えはもう改めなければならぬ時期ではないか。本当に必要なものを見極めて、優先順位をつけていかないと、立ち行かない経済状況だ。本当に20年後に必要だと思うのであれば、つくるしかないかもしれないが、私は、それよりももっと他にすべきことがあると思う。これまでだって、地域を豊かにするために、道路や町の整備をしてきたが、現にいろいろな問題が起きている。高速交通網ができた後の町づくりといっても、賑わっているのはインターのそば、あるいは新幹線では駅のそばだけだ。その賑わいにしても、町の人たちの暮らしが豊かになったというのではなくて、大型チェーン店ばかり栄えている。こちら辺で立ち止まって考える必要があると思う。国の借金を見ていたら、空恐ろしいようだ。これは本当に私たちが返していくことができるのか。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- : それは道路がすべて原因ということではなくて、日本の社会状況はどんどん変わっている。個人の努力ではどうしようもない。それぞれみんな食っていかなければならない。
- : 県の一般財源として、負担割合はどのくらいなのか。
- : 大雑把にいて道路特定財源が8割、2割が一般財源。
- : 道路公団の累積債務は大変なもので、全国合わせると6兆円にもなる。これから道路をつくるということはどういうことなのか、本当に必要なのかどうか、立ち止まって考えなければならない。現在の不景気は世界的なものなので、過剰生産による恐慌だとするのならば、以前のような景気が戻るとは限らない。
- : 今までのやり方では行き詰まってきている。立ち止まって逆の方向でやっていくことが必要だと思う。みんなが暮らしやすい町を住民の手でつくっていく動きが、全国的に始まってきている。30年後の穂高町を考えたときに、高規格道路ができてしまったら、人口も減って魅力のない町になってしまうかもしれない。いまここで、みんなが安心して暮らせる町づくりを進めていければ、30年後の穂高はもっといい町になるだろう。
- : 道路のメリットも考えて欲しい。旅行というのも重要な消費活動の一つ。快適な道路を造れば、旅行者も増える。
- : 白馬はオリンピックで道路整備が進んだが、オリンピックが終わったら、かえって観光客が減って大変なことになっている。そういうことも考えてみる必要がある。
- : 観光地でどこが勝ち残るかといえば、個性的なところ。何を売りにするか、金太郎飴でない観光地づくりがポイントだ。穂高にくる人はそんな画一的なものを求めているのではない。観光客を対象にしたアンケートでも9割以上の人がこの道路計画に反対しているという。まちの総合計画にも反しているし、商工観光面でも、穂高町にとってこの道はデメリットの方が多い。
- : 本当に町が壊れていくという危機感から訴えているといこともあるが、税金の使い道に納得がいけないという側面もある。本当なら単車や自転車で走りたいけれど危なくてできない、電動車椅子で移動したくても家から整備された道まで行くこともできない、生活に密着した道路はこんなに未整備だ。優先すべき順番が違うんじゃないのといいたい。
- : 南安曇郡を一つの市にするという動きがあるが、合併すると人口9万人になる。先日パンフレットが全戸配布されたが、そうになると議員の数も見直され、住民の声が充分届くか心配だ。
- : 市町村合併するためにも道路は必要だ。長野県は4市あれば充分だと私は思っている。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 13日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	3
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		
<p> : 農協は合併してかえって不便になった。 : 観光客 1000 人に聞いたというアンケートで、賛成は 4.5% だったが、賛成の理由として目的地を早く回れるということをあげている。これは我々にとって利点なのかどうかさえ疑わしい。道路を使って早く回りたい人たちがたくさん来るような観光地では、生活道路はもっと危なくなる。 : 前の知事だったらこんな意見交換会はできなかった。世の中変えていくにも、一步一步変えていくしかない。選挙も大切だし、こういう場で声をあげていくことも大切だ。 </p> <p> 今後の予定 *12 月初旬に穂高の全体会。県はここで一つの区切りにするという風には考えていない。他の地区の全体会にオブザーバーとして参加することは可能。 市町村を超えた合同の会は考えていない。 他の市町村のグループとの交流会は要望として出せば、調整する。 </p> <p> *第3グループの意見交換会はこれで終了とする。 *言い残したのある人は、来週中(23日金曜日まで)に記録係にFAXを。 *欠席時の意見交換の記録は19日月曜日以降役場に取りに行けばもらえる。 </p> <p> 欠席者には、上記4点について電話連絡をする。 </p> <p> 要望：大北以北の意見交換会グループとの交流会 </p>			